

## 日常療養・在宅医療を支える医療連携（医療介護連携）の論点 その2

○在宅医療ニーズの増大への対応をも踏まえ、かかりつけ医、医療・介護専門職、家族、包括、行政、地域における連携（医療連携、医療介護連携、地域における支援との連携）

（前提）急速に進む少子高齢化、特に後期高齢者の増加を念頭に本市が地域における医療連携に関する方策を明確にした上で、かかりつけ医、医療・介護専門職、家族、包括、行政、地域における連携ネットワークの構築を進め、医療・介護・予防・生活支援や権利擁護・住まい等についての情報が集約され、市民、特に高齢者一人一人にサービスが届く仕組みづくりを目指す必要がある。

現状・課題	論点
<p>○介護保険制度の地域支援事業である医療介護連携推進事業の取り組みが進む中、さらなる医療介護連携のあり方について検討が必要となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療所同士の連携は十分か</li> <li>・特に、在宅高齢者を支える医療・介護の充実を目指し、医療介護の連携の推進・多職種連携による情報共有・チームケアを推進する方策</li> </ul>
<p>○地域のサロンなどを活かしながら地域で様々な取り組みが行われているが、高齢者の生活支援とともに医療介護におけるネットワークの仕組みの検討が必要となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロンや見守り活動に医療介護連携の要素をどのように組み込んでいくのか。→「縦軸と横軸」の連携<sup>1</sup></li> </ul>

<sup>1</sup>資料—4 スライド10